

角川総一の 金融 逆さメガネ

需給バランスを人工的に作って大儲け!

多少の需給バランスの変化で価格が相応に動くことが確信できる場合、儲けるのは簡単だ。

例えば、発行済み株式数が2000万株で浮動株比率が十数%と低いA銘柄を5万株買いつける。と同時に、証券会社各社に在籍する証券外務員の知り合いに「お客に1000株買わせたら報償金1万円を差し上げる」と誘惑する。

こうして10人の証券外務員が1人につき平均5人の客にA銘柄を2000株買わせたら、それだけ

第21回

「投信の大量設定で株は天井」は中国株ファンドにも通用するか?

投資信託の大量設定時期は、株価の高値圏と重なる場合が多いことを以前実証した。では、これを中国株ファンドについて見てみると、いったいどうなるのか?

言うまでもなく、こうした計画に参加する証券外務員は、会社の枠を越えたエッセイ・共同利益追求ギルドに属するスパイのようなもの。デイトレーダーが跋扈する昨今では、さすがにこの手の手法は色褪せたようだが、それにしても人というものは次から次へといろんな儲けの方法を考え出すものだ。

いずれにせよ、余人にさほど不自然な印象を与えることなく、人工的にある種の需給バランスを作り出すのがポイントだ。

閑話休題。

中国株も他の商品と同じく「大量設定で株は天井」

以前、本連載で「投資信託の大量設定時期は往々にして株価の高値圏とダブることが多い」ことを長期にわたるデータを用いて実証した。そしてそれについてある推測を記した。

その際には株式投信全体をマスを取り上げたが、今回はもう少し対象を絞り込んで同様のメカニズム

ムが働いているかどうかを検証してみる。

我々の周りでは、昨年初めのころ次のような印象批評が飛び交っていた。いわく「今度一部の銀行がチャイナファンドを大量に販売したから、これで中国株ブームも一巡かね」「これに次いで大手証券会社が本格的にチャイナファンドを設定するらしいぜ。こうなると、しばらく中国株市場にはベンペン草も生えんだろう」というようにだ。

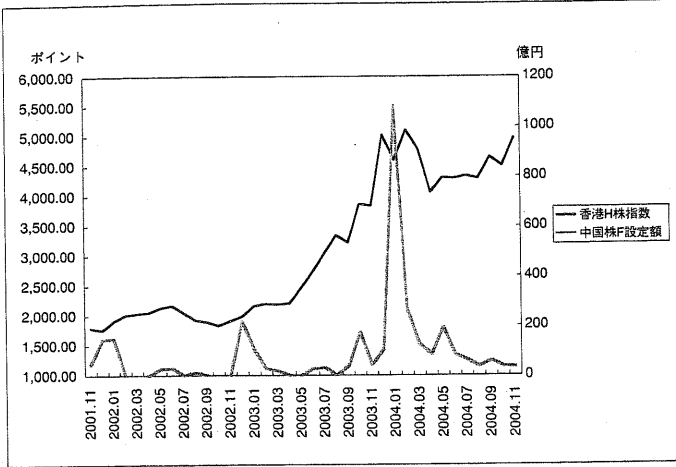
その裏にはより普遍的な感懐があるのだ。「大手企業が力にものを言わせて特定の商品を大量に販売したときには、同種の商品はしばらくは鳴かず飛ばずであることが多い」という感覚だ。より正確に言うところ、「かつてそのようなことが多かった」という、ぬぐいがたい思いがあるのだ。

話を戻す。一時期のあまりにも暗騒に充ち満ちた中国株ブームはひとまず一巡だ。で、中国株が目ざされて以来今日に至るまでの、「チャイナファンドの設定額」と「中国株の水準」を比較対照させ

るべく、グラフを描いてみることにした。

ファンドの設定額は新規募集ファンドのみを対象にし、中国株としては我が国の「チャイナファンド」が最大の投資対象としてきた香港H株市場の指数を取り上げ

香港H株指数と中国株ファンドの設定額の因果関係は…?



た。さて、その結果で上がったのが別掲グラフである。新規ファンドには、追加型は当然のことながら、単位型ファンドも含まれて、このグラフをどう見ればいいのか。

まず誰でも容易に分かることは、昨年1月の1カ月間に何と1000億円以上の新規資金がチャイナファンドに投入(ファンド購入資金として投信市場に流入、信託設定)されたのだが、この時期がまさに香港H株指数の高値と重なっているのだ。

まさに「大量設定で株は天井」を地で行くような見

事な因果関係だ。それ以外の山(設定額)についても多少なりとも株価との関係がうかがえるが、ここでは詳しく触れない。

では、この手の関係は必然なのだろうか。まず、最もシンプルかつ幼いもの見方は「そりゃ、買いがたくさん入ったから上がったんでしょ」というもの。ほとんど汚れを知らない人ならそう考えて疑わないだろう。

しかし、多少なりとも市場の空気を吸っていらつしゃった人なら、絶対にそんなふうには考えない。ではどんなふうになる?